

目次

- 2 特集
組合長 若手農業者と懇談
- 6 広げよう！育もう！
Active Membership
- 7 愛彩ランドの出荷者をご紹介
- 8 ニュース・アラカルト
- 11 あなたの運勢/モナ・カサンドラ
- 14 おしゃべり広場
みんなあつまれ！
- 16 営農インフォ
今月の農作業
- 18 らいふインフォ
18 いずみのええとこ発見
久米田池(岸和田市)
- 19 加代子先生のCooking
- 20 なんでも掲示板
- 23 お役立ち情報

撮影地：久米田池(岸和田市 2016年4月)



農業にかける熱い思いを語る！

『第1回おおさかNo.1グランプリ』入賞を受け、2月13日、杉本組合長と二人の座談会を開きました。

「まずは、グランプリ入賞おめでとうございます。さっそくお二人の経営強化プランについて、聞かせてください。」

木下さん(以下、木下) 僕はミニトマトをバッグ栽培という手法で作っていて、甘い人気なんです。発表したプランは、昔から考えていた大阪初のミニトマト観光農園。実際に今、実現に向けて動いてて、これ応募してみよう。

杉本組合長(以下、杉本) 観光農園はいい発想やね。トマトは好き嫌があるけど集客はどう考えてるの。

木下 集客は未知数なので完全に観光農園化してしまうと厳しいです。

ただ、現状は愛彩ランドでもミニトマトが足りていないので、基本的にはまず栽培に重心を置いて、余裕を持てる部分で観光農園をやるっていう感覚ですね。

杉本 それはいいね。確かに直売所でトマト類は周年で不足してるから、JAもぜひ応援したい。

花野さん(以下、花野) 僕はニンジン「彩誉」の産地化プロジェクト。4日(岸和田4日クラブ)で彩誉の栽培話が出た時、ニンジンよりホウレン草2作の方が収益率が高いから、みんな畑の端に2畝ほど作って、出荷時期は同じであふれかえるけど他の時期はないって状況です。じゃあ、



組合長 若手農業者と懇談

のおおさかNo.1グランプリ※入賞
準グランプリ 協賛企業特別賞
木下健司さん、花野真典さんと

いろいろな機械を導入して計画的に栽培できる仕組みを作ったらいんじゃないかと。4日で共同栽培して、どこまで広げたら採算ラインに合うか試せると思って応募しました。

杉本 大阪生まれの彩誉プロジェクト、すごくいい取組みやね。これだけのいい品物なんやから、もっと宣伝して消費につなげないとな。大阪府下の直売所は大小20以上あるから、そこに例えば全農が入って、互いの地区にない商品を双方に流通できる仕組みが必要。彩誉も長期間、出荷できるようにしたいよね。

「プランの先に考えていることは何でしょうか。」

木下 観光農園はあくまで手段で、最終的には地域単位で農家が増えないと意味がないと考えています。僕が農家で儲かっていることをしっかりと発信して、「農家って儲かるんや。」

じゃあ自分もやってみようかな」と思ってもらった。グランプリの会場で、僕の発表を聞いた1000人の若者のうち、一人でも「木下さんの話を聞いたから農業を始めた」と言って言ってくれたら、それで成功かな。

僕自身、会社員から転職して農業をしています。転職する若者はいっぱいいるけど、転職先の選択肢に農業はない。農業をやってみてあかんかったら辞めてもいいと思うんです。でも、とにかく間口を広げないと、人が入ってこないで、そこを何とかしたいですね。

杉本 その通り。会社員でも農地がなくても、農業委員会を通じて就農できることや、農業はやればやるだけリターンがあることを知ってもらおう。実際に経験した君たちからの発信の方が響くよね。

花野 僕は農業を始めた頃から援農ボランティアを受け入れています。都会の会社員や学生で、農業を体験したいと思っている人は意外に多く、今は、愛彩ランドのように子どもの食農教育にも取り組んでいます。こういう活動をもっと大々的に実施したら、より一層、農業に近づいてもらえるかな。そして1000人に一人でも農業をする人が出てきたら、日本では1千万人くらいの農業人口になる。みんなに畑で遊んでもらって、農業を支えて未来に結び付けてくれたらと思います。

杉本 農業を身近に感じてもらうには農業体験が一番、しかも援農ボランティアとは。JAも農業者の高齢化対策の一つとして考えているが、別の意味ですですに取り組んでいるのは素晴らしい。

花野 援農ボランティアは時間に応じてお弁当やお菓子を而出しています。農業者の平均年齢は66才。国産農産物の生産は70歳以上が50%、60歳以上なら80%です。39歳までの若手農業者はたった5%。国産野菜の需要って絶対なくならないし、60歳以上の人が引退するとうなるのか……。

杉本 農業者の高齢化や担い手不足はJAだけでなく日本にとっても大きな課題。食は大切やからね。

<p>PROFILE</p> <p>花野 真典さん</p> <p>昭和53年11月生まれ(38歳) 就農6年目 くじらのペンギンハウス 代表 販売先: 愛彩ランド、ららぽーと、葉菜の森</p> <p>農業の好きどころ: 農業体験者とのふれあい 好きな奥様の手料理: ハンバーグ 農作業の必須アイテム: iphone(写真撮影や日記作成用)</p> <p>ラヂオきしわだ「SUN SUNファーム」 (毎週金曜、正午~)に月一回出演中。</p> <p>グランプリ発表プラン 大阪生まれの大阪育ち 「彩誉人參」産地化プロジェクト</p>	<p>地域の皆さんへメッセージ</p> <p>岸和田4Hクラブでさまざまなイベント活動をしています。見かけた時は、ぜひ気軽に声を掛けてください。</p>
<p>PROFILE</p> <p>木下 健司さん</p> <p>昭和54年1月生まれ(38歳) 就農9年目 キノシタファーム 代表 販売先: 愛彩ランド、スーパー、百貨店など</p> <p>農業の好きどころ: やればしっかり見返りがある。おいしいミニトマトができた時はお客さんの反応が楽しみ</p> <p>休日の過ごし方: 休みがあれば畑に行きます！好きな奥様の手料理: 麻婆豆腐</p> <p>グランプリ発表プラン 大阪初！本格的ミニトマト観光農園と地域への波及を目指す！！</p>	<p>地域の皆さんへメッセージ</p> <p>ほんとにおいしいミニトマトを食べてみてください。こんなのが岸和田市、和泉市で作れるんです！</p>

※1月にJAグループ大阪と大阪府が開いた若手農業者が農業経営の強化プランを提案し競い合うコンテスト

「お二人の就農のきっかけについて詳しく教えてください。」

木下 29歳の時、知り合いに将来について相談したら、「お前は家が農家で、農業をやりたいって言えばすぐにできる。すごく恵まれてるんですよ」と言われて、確かにそうやなと。でも両親は僕が農業をしないと思って農地を縮小したんです。だから、いざ僕がやるとなったら農地がない状態で(笑)。今は土地を借りて農業をしているんですけど、JAや行政と話す時は「木下さんとこの息子さん」って言ってもらえて、やりやすかったですね。一から新規就農するほどしんどくはないけど、親と違う作物を作っているので二代目ほどでもないっていう感じでした。



表彰状を手に記念撮影

花野 僕も会社員でしたけど、家が農家ではなくて。きっかけは10年くらい前、食に関する偽装事件の報道を見て食と農に興味を持って、まずはペランダでプランター栽培を、それから畑を借りて週末農業を始めました。ミニ耕運機や扇風機つきの農業用作業着を買って。

木下 完全防備ですごく怪しかったよ(笑)。
花野 その作業着は気化熱で熱を逃がすから涼しくて汗はかかないんですよ。でも、周りの人は暑くてもTシャツ一枚と鍛でやっていて……。もって機械化したらいのになって思ったんです。週に1回の世話でも野菜は育つし、直売したら売れた。本格的に農業をしようと思ってからは、まず農園のアルバイトで経験を積んで……。今は7反の農地を借りてますが、まだまだ広げたいです。

杉本 君たちのように「新しく農業をやりたい」と言っても始めるのは、JAとしても今の農業者層からしても一番うれしい。農家の子は親が苦労してる割に儲からないという理由で継がないから、職業として儲ければ、若い人のやる気につながるね。
「農作業は何人でされていますか？」
花野 僕と、パートナー2人に1日ずつ交代で収穫に来てもらっています。それと援農ボランティアが月平均5人くらいです。

均5人くらいです。
木下 僕は僕と正社員2人、パートさん2人です。今、ハウスを増設中で、さらに正社員とパート数名が必要なんです。周年栽培で年中仕事があるんで、「農の雇用事業」も活用しています。

杉本 昔ながらの家族経営ではなく、人を雇う。それは農業をビジネスとして捉えているから。可能性が広がるね。
「JAグループと大阪府が創設した『大阪アグリアカデミア』に、お二人を含め、当JA管内から8名が受講されていますね。」

花野 府連(4日クラブ大阪府連合会)の定例会で、府職員から「今度『アグリアカデミア』っていう農業の未来を担う中核経営者を育てる勉強会を開くから、ぜひ来てくれ」と誘われ応募しました。特に事例紹介は、こちらから出向かないと話を聞けないような人が全国から来てくれるので参考になります。
木下 僕も、いろんな分野の人たちから今の農業界がどうなってるかって話を聞けることが良かったです。例えばミニトマトも、ただ単においしさで売るのは過去の話で、どう付加価値をつけるか、その方法もいっぱいある、というような情報。受講費用はかかるけど安いと思います。

杉本 新しいことには自分から出て



次第に緊張もほぐれ笑顔を見せる二人

「当JAは中長期的農業戦略『地域営農ビジョン』の実現に向け、第3次総合3か年計画で自己改革に取り組んでいます。特に注目していることはありますが。」

木下 青壮年部(若手農業後継者組織)がどうなるか楽しみです。今は4日も農研クラブ(農業研究クラブ)も岸和田の中だけです。JAの青壮年部なら他の市町の人とも交流できる。団体や市町の枠を越えて、一緒にもっと農業を良くしよう、もつと

地域住民と関わりを持つという意識が持てたら、いい結果が生まれるんじゃないかと。

花野 僕も青壮年部がどんな活動をするのか気になります。全国で4日は約1万2〜3千人、JA青壮年部は約6万人。4日は同年代の横か、農研クラブとしかつながりがないから、その抜け落ちてる部分の交流は青壮年部しかないと思います。

杉本 青壮年部は早急になんとかしたいね。1月に専務と新規就農者への研修・指導で成功しているJA宮崎中央の子会社を視察してきた(広報誌3月号の特集参照)けど、地域農業の振興と地域の活性化には、若手農業後継者や新規就農者のバックアップが不可欠と感じたよ。

木下 それと『都市農業振興基本法』。僕は府連会長として農林水産省からヒアリングを受けた時、国土交通省も一緒に作っていることが画期的や



視察の体験を語る杉本組合長

と意思が通じました。そこに文部科学省が食農教育で入って、国の補助金制度もあればもつと活用できる。詳細はこれからやから、府にJAからもつと意見をあげてほしいです。この法律をうまく活用できるのは大阪しかないから。僕は「大阪は大消費地に近いから、農業をやったら儲かる農家ばかりです。でも土地が回ってこないから儲かるもんも儲からない」って発言したけど、一農家としての声は弱いです。だから『大阪のJAグループ』として力を入れてほしいです。
杉本 もつと国に大阪府の実態把握してもらわなあかん。農林水産省や金融庁への訪問時に大阪農業の現状を話すと「そんなにやってるんですか!」と驚かれる。僕も都市農業振興基本法は、大変重要と考えているよ。これからも大阪のJAグループとして、どんな発言していきたい。

「JAの事業で何か気になるものがありますか。」

花野 自動車販売店に軽トラックを買いに行った時、「JAの組合員なら営農総合センターを通した方が安いよ」と言われて驚きました。周りから「JAを通すと高い」って話を聞いていたので(笑)。
杉本 昨年発足した大阪地域農業振興サポートセンターから、車種に応

懇談後、三人は力強く握手を交わした



じて補助金も出るよ。
花野 補助金と言えば、ハウスを建てる時、愛彩ランドに出荷したら補助金が出る話とか、役立つ情報をもつと発信もりたいです。

杉本 担当は宣伝するけど、部門間や組織間の連携が不足してるんやな。自己改革で実践すべき農業者の所得増大のためには、営農だけでなく金融や広報部門、それにJAグループが一緒に

なって、きちんと皆さんに効果的な発信をしないと。制度は使ってもらって初めて意味がある。さつそく指示を出すよ。

花野 あの、5月の総合展示即売会をもつと地域住民と関わりを持つイベントにできないですか。

木下 新たに、愛彩ランド東側の新道の一部を通行止めにして、道沿いに店を出して農業まつりみたいなイベントをしたら面白いと思うんです。御堂筋パレードみたいな。

「若手農業者の熱い思いを聞ける良い機会になりました。貴重な時間をありがとうございました。」

杉本 これからも切磋琢磨して成長してほしい。困ったことがあれば、いつでも相談に来てください。
木下・花野 ありがとうございます。これからも頑張ります!

※大阪の農業を成長産業に育てようと、大阪府とJAグループ大阪が協力した農業ビジネススクール。経営強化を目指すリーダー養成コースと新規就農者向けのスタートアップコースがある。